

平成 26 年 1 月 30 日 00155 号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【新年挨拶】

NPO 法人北見市武道振興協会 理事 宮末政則

新年明けましておめでとうございます。

去年は、念願であった北見市武道館の竣工式があり、感慨深い正月を迎えました。今年、この武道館で心技体を極めるよう稽古に精進し、邁進していきたいと思っておりますので皆様のご指導の程よろしくお願い申し上げます。さらには、武道館の利用率を少しでも上がるような努力もしていかなければならないと思っておりますので重ねてお願いいたします。

北見市少林寺拳法協会会長 宮末政則



連載 中国「老子」の思想

三十九章 “底“があるから”高“がある

天地の開闢^{かいびやく}に先立って、「道」があった。「道」は、対立を超えた渾然^{こんぜん}たるひとつの物である。

天は、この「道」にのっとり清く、地は、「道」にのっとり安定^{あんてい}し、神は、「道」にのっとり靈妙^{れいめう}に、谷は「道」にのっとり充実^{ちゆうじつ}し、万物は、「道」にのっとり生育^{じよく}し、君主は、「道」にのっとり天下の規範^{きはん}となった。

いずれも根元は「道」である。だから、もし天が「道」にのっとりなければ、天は裂けるであろう。

もし地が「道」にのっとりなければ、地は割れるであろう。もし神が「道」にのっとりなければ神は力を失うであろう。もし谷が「道」にのっとりなければ、谷は涸渴^{こかつ}するであろう。もし万物が「道」にのっとりなければ、万物は滅びるであろう。もし君主が「道」にのっとりなければ、君主は倒れるであろう。

貴賤は本来、ひとつのものだ。賤をもととしてこそ、貴が成り立つ。高低は本来、ひとつのものだ。低をもととしてこそ、高が成り立つ。

君主は、自身を指して「弧^こ」「寡^か」「不穀^{ふこく}」と呼ぶ。賤を賤として切り離さず、賤を貴の根拠^{こんこ}としている証拠^{しんこ}である。

車を部品に分解すれば、車は存在しなくなる。ひとつにまとまってこそ、車としてはたらく。

光り輝く玉、ただの堅い石ころ、これまた元はひとつである。どちらにとられてもならないのだ。

*〈谷〉大地の裂け目。谷からは水が湧き、雲が起り、それによって草木が生じ、鳥獸が養われる。古代人の眼にはまことに神秘的な創造力の源泉と映ったであろう。また谷は、女性を象徴するものとして、古代生殖信仰の対象でもあった。〈母なるもの〉

原文は「玄牝」、玄妙不可思議な雌(母)の意。

*〈弧・寡・不穀〉弧は、みなしご。寡は寡人で、徳寡^{すくな}き人の意。不穀は、不善の意味で、いずれも君主の自称として用いられた。

原文:昔之得一者。天得一以清、地得一以寧、神得一以靈、谷得一以盈、萬物得一以生、侯王得一以爲天下貞。其致之、一也。天無以清將恐裂。地無以寧將恐廢。神無以靈將恐歇。谷無以盈將恐竭。萬物無以生將恐滅。侯王無以貴高將恐蹙。故貴以賤爲本、高必以下爲基。是以侯王自謂孤寡不穀。此非以賤爲本耶。非乎。故致數譽無譽。不欲琤琤如玉、落落如石。四十章に続く